

別紙3 評価基準

評価項目	観点	配点
必須要件	企画提案書により、仕様書(別紙1)(2(6)を除く。)に掲げる必須要件全てを十分に備えているかを評価する。	20
UI/UX	企画提案書により、ユーザ、管理者の使い勝手(UI/UX)が優れているかを評価する。	20
その他の要件	企画提案書により、仕様書(別紙1)の2(6)に掲げる、必須の要件以外の「市職員の業務効率化、生産性の向上に資する要件」を備えているかを費用も含めて総合的に評価する。また、それらの機能が本市での業務に活用可能か、特にRAG機能が充実しているかを重視する。	20
トライアル利用による評価	トライアル利用により、使用感を総合的に評価する。 (生成速度、精度のほか、上記要件等の使用感を総合的に評価)	10
実施体制	本市と協力し業務を確実に履行しようとする姿勢がみられるか、業務の履行に十分な実施体制が構築されているか、想定する導入スケジュールは現実的なものとなっているか、マニュアルの整備や問い合わせ対応等のサポート体制は十分かなどを評価する。	15
見積書	提案内容に見合った妥当な金額となっているか、文字数やアカウント数当たりの単価が安価かなどを踏まえ、本市が想定する利用内容に十分耐え得るプランとなっているかを総合的に評価する。 なお、利用アカウント数に対する課金方式の場合、別紙2に記載の「効率的かつ合理的に経費を抑制できる課金方式」の提案があるかどうかを評価も評価の対象とする。 ※見積書の審査は、調達仕様書「2 (1)～(5)」に掲げる機能の費用を基本に評価する。	15